

住む人・使う人が主人公！

私たちは住む人・使う人の
立場に立って設計しています。
お気軽にご相談下さい。

京都建築事務所

〒 604-8083

京都市中京区三条柳馬場東入中之町10

代表取締役社長 川下 晃正

TEL (075) 211-7277

FAX (075) 211-7270

http://www.kyoto-archi.co.jp/

〒601-8382

京都市南区吉祥院石原上川原町21

http://www.creates-k.co.jp

クリエイツかもがわ



TEL 075 (661) 5741

FAX 075 (693) 6605

送料何冊でも240円

●障害者権利条約の時代—障害者にも当たり前に高等教育の保障を！
知的障害者の

大学創造への道

ゆたか「カレッジ」グループの挑戦

長谷川正人◆著 田中良三・猪狩恵美子◆編
社会福祉法人 鞍手ゆたか福祉会◆協力

高校卒業後、ほとんどが大学へ進学する時代：
障害者も大学で学ぶ必要性和可能性を明らかに
する。

A5判232頁 2000円＋税



アメリカの知的障害者の大学受け入れと実情を紹介！

障害のある人と そのきょうだいの 物語

青年期のホンネ

近藤直子・田倉さやか◆編著
日本福祉大学きょうだいの会

「話せる場」ができたとき、これまでの自分とこれからの自分に向
きあい、兄弟姉妹や親への思いを語り出す14人の青年たち。

A5判96頁
1000円＋税



花咲き 夢咲く桃山の里

地域と歩む障害者福祉

社会福祉法人あみの福祉会◆編著

京都府北部の小さな田舎町にある「桃山の里」。どんなに障害が
重いなかまとも正直に向きあい、うれしいことや苦ししいこと、怖
いと感じたことも職員で共有する息の長い実践。

A5判224頁
2000円＋税



人が起こす戦争は、 人によってなくすことができる

9月11日・愛知

「戦争法案反対！ 障害者の権利・自由・平等を守る行動」



さーあ。みんなで写真とるヨ。ポスターを頭の上にして、ハイ。

9月7日に亡くなった、きょうされん愛知支部長小川春水おがわはるみさんの笑顔が「みんなで戦争法案反対しまい」と言っている。





さかえ

名古屋市栄で9月11日「障害者の権利・自由・平等を守る実行委員会」が戦争法案反対集会とデモを行いました。集会には、車イスの肢体障害者・白杖を持つ視力障害者・ろうあ者・知的障害者・精神障害者・家族・関係者ら300人超が参加。集会の司会は、作業所の仲間。仲間たちのペースでホッカリとユ〜ッタリすすめられました。

うめおあけみ

愛知視覚障害者協議会（愛視協）の梅尾朱美さんが、東海豪雨・茨城や宮城の豪雨に触れ、「災害は自然の力が大きいですが、戦争は人がおこすものだ、人によってなくすことができる」として、アピールを読み上げ、提案。みんなの拍手で確認しました。集会のあと、栄の街を「戦争法案反対」「憲法守れ」とユックリめのデモ。



「戦争は障害者を抹殺する」「戦争法案に反対しよう」と挨拶する、愛知県障害者（児）の生活と権利を守る連絡協議会会長・野原信一さん。この集会・デモに引き続いて、名古屋駅西口噴水前で19時30分から翌日7時すぎまで徹夜の反対運動をおこない、100名余が参加しました。

(写真・下野祇園、文・上田孝)

●特集● 当事者から考える社会福祉

オープニング		8
記念講演 “報道” と “福祉”	水島 宏明	12
リレートーク 廣川真弓、村田 勇、星 俊光、荒川公男、山崎光弘		14
第1分科会 貧困を個人責任にせず、国と社会が根絶をめざす姿勢を	高藤登喜恵	22
第2分科会 子どもの発達保障に環境と継続性の視点を	浅川 茂美	24
第3分科会 社会保障制度そのものの破壊に抗し、 これまでの枠をこえた運動づくりを	萩原 政行	26
第4分科会 福祉の市場化に抗する社会福祉事業関係者の協同を	酒井 依子	28
第5分科会 教育と福祉の連携をつよめ、若者を支える	寺久保光良	30
第6分科会 問われる福祉現場での災害の位置づけ	谷川 修	32
埼玉集会を終えて	濱畑 芳和	34

●トピックス●

ブックレット紹介・埼玉集会にあわせて発刊しました！		35
2015年度会員のつどい・8月29日		36
戦争法案反対 社会福祉の仲間たちのたたかい		
(1)独裁を排し民主主義をとりもどすために	編集人	42
(2)写真で振り返る		43
(3)全国各地に広がった平和（戦争法案反対）赤Tシャツに思いを寄せて	編集主幹	47
衣笠ゼミ（早川一光さんを囲んで）	編集主幹	48
第20回合宿研究会 in 京都のご案内		52
高齢者大会 in 和歌山「今風井戸端会議」は今年も盛況！		53

●連載●

フォーラム 地域包括ケアシステムを考える原点	河合 克義	56
相談室の窓から 特別支援学校の先生たちの挑戦	青木 道忠	58
ソーシャルワークの原点と息吹を感じて		
ダラム大学での地域プロジェクトのあれこれ(2)	伊藤 文人	60
育つ風景 「小学校に行っても困らないように」を考える	清水 玲子	62
「助けて！」って言うてもええねんで！	徳丸ゆき子	64
全盲夫婦の出会いから 二人三脚のあゆみ		
子どもの頃の思い出 勝夫(3)	千田勝夫・絹枝	66
映画案内 『パリ3区の遺産相続人』	吉村 英夫	68
現代の貧困を訪ねて		
コーヒーも納豆もトマトもバターも……	生田 武志	70
なにわ銭湯見聞録(31) 銭湯の時間ですよ～！	ラッキー植松	72
いただきます！ 名前はこわいけど やさしい味の鬼まんじゅう	槻ノ木 荘	74
ホームレスから日本を見れば	ありむら 潜	76
花咲け！男やもめ	川口モトコ	77

●表紙の絵●
神門やす子

福祉は特別なことじゃない

第21回社会福祉研究交流会参加者 くわた桑田 くにこ久仁子さん

福祉とはほとんど無縁だった私が、大学院で勉強をはじめたきっかけは、コミュニケーションが苦手な社会になじめない甥っ子を手助けしたいという気持ちからでした。

わが国の障害者数を人口一〇〇〇人当たりの数で見ると、身体障害児・者二九人、知的障害児・者四人、精神障害者二五人（二〇〇五年度国勢調査。精神障害者数は二〇一〇年度の数字）です。国民のほぼ六%にあたる人に何らかの障害があります。その数字から見るとマイノリティーなイメージだったのですが、誰しも障害者になる可能性はあり、必然的に高齢期を迎え、保育、そして貧困と、福祉とは実はとても日常的な問題なのだと思いが変わりました。要するに、私はまだ福祉の世界の新参者です。

私は、この世界に足を踏み入れて衝撃を受けました。私がかつて仕事をしていた一般企業での新年会総会は、一流ホテルで正装してフルコースデザイナーのパーティー。いっぽうで、障害をもった人たちとの交流会では、コミュニティセンターの会議室にて袋菓子持ち寄りでした。あまりにつつましやかで地味なので、同じ「仲間の集まり」なのに世界がちがう、と違和感を覚えました。こんなに差があつていいの？ という疑問が心に残りました。

現場を知ろうと経験した、障害児入所施設支援員や生活介護事業所の仕事を通じて、今まで傍観していた私が、実際に障害のある人たちといっしょに作業や活動をし、生きにくさを共感し、当事者の立場で考えるようになっていきました。



くわた くにこ

立命館大学（社会学専攻）卒業後、船井総合研究所マーケティングスタッフ。結婚退職後、国立博物館監視員。パソコンインストラクターなど。福祉現場では、障害者施設あけぼの学園指導員、生活介護支援事業所「てふてふ」にて介護報酬請求事務などを経験。現在、愛知県立大学人間発達学研究科博士前期課程。「就労支援事業」をテーマに研究を進めている。

私の大学院での研究テーマは、障害のある人が少しでも良い条件で社会で活動できるようにしくみづくりです。それを就労支援で考えた場合、ただ障害者を守るという視点ではなく、障害者の側の仕事をする意欲と努力、そして受け入れ企業側の理解と協力、双方のニーズがマッチするところに障害者の活躍の道ができると考えています。それを実現するためには、就労支援事業をどのように運営していけばよいのかを考えていきたいと思っています。

社会福祉研究交流集会へは、昨年と今年、つづけて参加しました。福祉にかかわりはじめたばかりの私にとって、現場の人の話や制度上の問題などとても勉強になりました。福祉にかかわる人たちが集まって知識を深めたり問題点を共有しついに考えることは非常に大切であり有意義だとは思いますが、もっと大事なことは、一人でも多くの人が福祉の現場を知り、理解し、考えることです。「一人でも多くの人」とは、かつての私のように福祉のことを身近に感じたことがない人が関心をもつということだと思います。そのためには、福祉の関係者だけでなく、外からの訪問者を招き、福祉についての議論を交わしてみたいかがでしょうか。身内だけで集まっても外への道は開けません。私はそんな動きを期待します。

さて、来年の集会へは、自分自身の問題意識を深めて参加したいと考えております。今回の分科会への参加が大きな節目となり、私の研究の方向も定まってきました。私の研究の目的である「障害者の活動の場づくり」を意識して、参加しようと思います。

当事者から考える社会福祉

第21回社会福祉研究交流集会in埼玉 8月29日・30日



特集は、埼玉県熊谷市の立正大学熊谷キャンパスで行われた、第二回社会福祉研究交流集会in埼玉の概要をお伝えします。今回の集会には、二日間で二〇名（報告者、スタッフ含む）の参加がありました。

一日目の全体会は、「小槌会^{こづちかい}」の太鼓演奏で開幕です。小槌会は、知的障害の方を中心にした和太鼓演奏グループです。大小の和太鼓や笛のにぎやかな演奏につづいて、獅子舞が登場。最後に「平和なくして福祉なし」「がんばりましょう」と会場の参加者にメッセージが送られました。



開会あいさつ

すべての企画を「当事者目線」で構成

寺久保光良さんてらくぼみつよし（集会実行委員長）

今集会テーマ「当事者から考える社会福祉」について、いまは政策から当事者をとらえる指向が中心となつていますが、社会福祉は本来、当事者から考へるべき課題だと考え、すべての企画を「当事者目線」で構成しているのが今回の集会の特徴です。

国民、社会福祉・社会保障、福祉現場のおか れているきびしい状況



集会を開催する上でおさえておかなければならない社会状況は、いまの日本では新自由主義

経済政策がおしすすめられており、いまや労働者の四〇%が非正規雇用となり、労働者全体の賃金や社会保障制度も不安定なものとなっていること。若者や子どもたち、働く人たち、年金生活者の暮らし向きはよくならずたいへんであることです。国民生活が困難と混乱を極めている状況の中で社会保障・社会福祉はというと、税と社会保障の一体改革で、税は上げる、社会保障は削る動きが露骨に進められ、その結果、社会福祉の現場は「ブラックだ」といわれ、職員の熱意と犠牲で成り立っているのが現状です。

また、膨大な防衛予算を組むいっぽうで社会保障は減額が続き、防衛費と社会保障費は表裏一体となつていきます。こうした中で第二回集会は、国民の生活実態や福祉実践の状況を明らかにして実践と運動に自信をもち、あわせて戦争法案は不要であることを明らかにしていきたいと考えました。